

国立病院機構熊本医療センター

No.177



# くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市二の丸1番5号  
TEL (096)353-6501(代)  
FAX (096)325-2519

## グリーンライトレーザーが導入されました



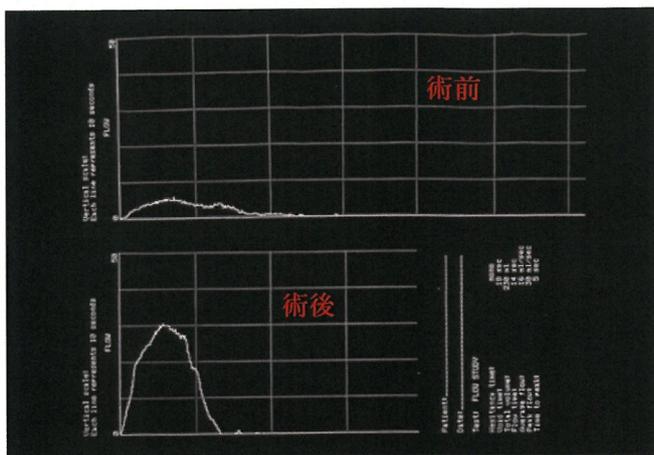
### 前立腺肥大症に対する新しい治療 ～グリーンライトレーザーによる経尿道的前立腺蒸散術～

当院泌尿器科では、平成24年1月より男性の排尿障害の原因として最も多い前立腺肥大症に対する新しい手術機器を導入しました。

前立腺レーザー蒸散術（PVP：Photoselective Vaporization of the Prostate）は現在全世界で前立腺肥大症患者の60%に行われている手術です。昨年日本で保険診療として認められ、全国でもまだ数台と限られた施設の中で当院が県内で最も早く機器を導入しました。

この治療機器の特徴は極めて高い安全性です。これまでの前立腺肥大症手術は電気メスで前立腺組織を切除していく方法が一般的でしたが、出血に伴うリスクから抗血小板薬や抗凝固薬を日頃常用されている方や心機能に問題がある方には推奨されませんでした。また金属のステントを尿道内に挿入する方法も結石付着や感染など手術後の長期合併症を考慮する必要がありました。

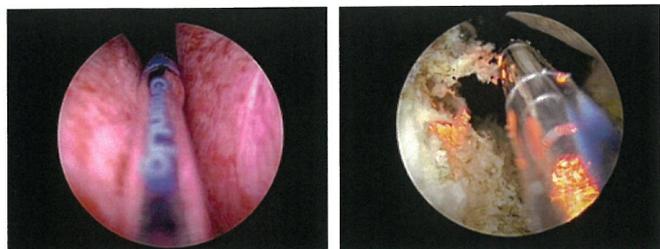
当院に導入されたPVP治療機器（AMS社製 GreenLight® High Performance System）は、出血がほとんど無く手術後の留置カテーテルの留置期間や



前立腺レーザー蒸散術前後の尿流曲線

退院までの期間も2～4日と短い事から合併症が気になる患者様にもお勧めできます。また逆行性射精の合併も少ないことも他の手術には無い利点です。従来のレーザー治療機器と比べても高い蒸散力を有し手術時間の短縮も図られました。前立腺肥大症に悩む日本人男性は現在400万人以上と推定されています。当院での治療にご興味のある方は是非ご相談ください。

（泌尿器科 瀬下 博志）



前立腺部尿道

レーザー照射中



## 「削ってかぶせるだけが 歯科医療ではないとの思い」

ゆみこ歯科クリニック  
院長 町田 由美子

熊本市西部、診療室の窓からは金峰山を望むことのできる小島に平成15年4月に開院し、早や9年が経ちました。

有病者や在宅、施設への訪問診療に平成4年の卒直後より関わり、その後、2年間、鹿児島大学で文部教官助手として義歯補綴の専攻のもと、学生の指導と臨床を行ないました。

高齢化の進む地域医療へ貢献できるとの思いで開業いたしました。自身が子育て中ということもあり、子供の頃からの生活習慣、食事のあり方、姿勢を含む習癖をなくす意義について、掘り下げつつ、患者さん目線での歯科治療を目指して、子どもから年配の方までの幅広い診療となっています。

歯科医療の一般臨床は、基本的に菌の感染症に対するものであり、また、生活習慣病の一種です。削って修復したとしても、リスクが高いままでは再発し、最終的に歯を失ってしまいます。

『(知識として) 知らずに予防できない患者さんをつくらない』ということで、カウンセリングにコーチング手法も取り入れ、まず、ご自身の状況だけでなく、啓蒙を続けることで、知っててできないことレベルまでまず引き上げ、できるレベルまで寄り添い、知ったおかげで健康を維持でき、おいしく食事ができるようになっていただけるように、との思いでスタッフ一同、日々取り組んでいます。

今後は、特に摂食嚥下へのチーム医療の取り組みが増えてきます。

これまでも困難な外科手術が必要な患者さんや重症な外傷の場合は、熊本医療センターの口腔外科の先生方にお世話になり感謝しております。摂食嚥下についてもご指導のほどよろしくお願いたします。



## FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受信日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願申し上げます。

FAXの紹介用紙は、電話（代表096-353-6501 内線2360）またはFAX（医事096-323-7601）でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

(経営企画室長 中村 敦)

# 病棟紹介<12>

## 7 西病棟

7階西病棟は消化器内科と呼吸器内科を中心とした病棟で、空気感染症にも対応できるよう3部屋の陰圧室を備えています。消化器内科では、緊急入院や検査・処置が多いため、それに対応できるようプロセスパス作成に取り組み、その使用が軌道に乗ってきたところです。また、肝疾患の患者様に対しては毎月肝臓病教室を開催し、特に、インターフェロン療法を受ける患者様に対しては地域連携パスを活用し生活指導を充実させています。呼吸器内科では、人工呼吸器等様々な呼吸管理法や抗癌剤等の知識を必要とし、他部門とも連携を取りながら多岐にわたるニーズに対応できるよう努めています。

病棟の環境は、眼下に四季折々の花が咲き乱れる公園が見渡せ、遠くには季節によって表情を変える金峰山を望むことができます。患者様に穏やかな療養環境と質の高い医療・看護を提供できるよう、スタッフ一同日々努力を重ねています。

(7西病棟師長 田中 幸子)



7西病棟スタッフ



病棟の窓からは九州新幹線が見えます



肝臓病教室の様子



スタッフステーション

# 2012 診療科紹介 (46) 臨床検査科



部長

東 輝一郎

内科一般、内分泌・代謝一般  
糖尿病

日本内科学会認定医  
日本内科学会指導医  
認定内科専門医教育責任者  
日本内分泌学会内分泌・代謝科専門医  
日本内分泌学会内分泌・代謝科指導医  
日本糖尿病学会専門医  
日本糖尿病協会療養指導医  
日本人間ドック学会人間ドック認定医・専門医  
日本人間ドック学会研修関連施設指導医  
日本医師会認定産業医  
日本内科学会九州地方会評議員  
日本内科学会評議員  
日本内分泌学会九州地方会評議員  
日本内分泌学会代議員  
臨床修練指導医  
臨床研修指導医  
国際医療福祉大学特任教授



医長

鶴田 敏久

小児科一般、血液一般、化学療法  
細胞療法、分子療法

日本小児科学会専門医  
日本血液学会専門医・指導医  
日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医  
小児血液・がん暫定指導医  
東京女子医科大学脳神経外科非常勤講師

## 診療内容と特色

臨床検査科は医師2名（1名は専任）、検査技師27名（技師長、副技師長、主任7名、非常勤7名を含む）から成り立っています。大きく4つの部屋（検体検査室、生理検査室、病理検査室、採血室）に分けることができますが、さらに、検体検査室は一般検査、血液・凝固検査、生化学検査、免疫血清検査、細菌検査、輸血検査の6部門に分かれています。

生理検査室では各担当診療科の先生方のご指導下で、心電図、トレッドミルなどの負荷心電図、心臓超音波、腹部超音波、肺機能、聴力、神経伝導速度、血圧脈波（ABI/TBI）などの検査を、病理検査室では病理診断科の村山先生のご指導下で各種細胞診検査や組織標本

作製などの仕事を行っています。採血室では午前中は各部署の担当看護師の方々と一緒に業務を行っています。

当検査部門の特色として、救急件数の増加に伴う、時間外の検査件数が多いことがあり、殆どの検体検査機器は24時間稼働しています。年々増加する検査件数に対応すべく、自動化できるものは自動化し、より正確で迅速な検査結果の提供に努めています。血液疾患が多いことも当院の特徴ですが、末梢血や骨髄の標本検査など、熟達した技師が目視で対応せざるを得ない検査も増加しています。幅広い知識や特殊技術が必要であることはすべての検査分野に共通していますが、各種検査機器のメンテナンスも含め臨床検査科の仕事は多方面に渡っているため、今後、新たな人員の確保は重要な課題です。

そのような中で、当科では学生教育にも力を注いでいます。毎年、熊本大学医学部保健学科、熊本保健科学大学保健科学部の学生の方々各8名、約2ヶ月間ずつの実習を行っていただいております。学生教育は各部門スタッフの重要な仕事の一つとなっています。

## 診療実績

平成22年度の各種検査の検体件数は一般検査386,332件（前年度比16.4%増）、血液・凝固検査802,167件（前年度比12.6%増）、生化学検査1,714,867件（前年度比14.7%増）、免疫・血清検査215,184（前年度比18.9%増）、細菌検査61,484件（前年度比5.8%増）、輸血検査18,682件（前年度比24.8%増）、生理検査36,153件（前年度比0.3%増）、各検査部門とも検体数が増加しています。平成23年度はさらに増加しています。

## 研究実績

平成23年度は筆頭論文5編（英文2編）、総説5編（英文2編）、学会、シンポジウム発表は国際学会2題を含め十数題あり、その他、院外、院内を問わず多くの研修会などで、発表や教育・指導講演などを行っています。

## ご案内

現在、上記9部門に加え、遺伝子検査部門が始動し、平成23年11月よりコバスタqMan48 TMシステムを用いてHBV、HBV定量を開始しています。今後、Step OnePlus TM PCRシステムを用いた定量PCR（Real-time PCR）、Veriti Thermal Cycler TMなどを用いた定性PCR（RT-PCR）などの遺伝子検査を導入していきたいと考えています。

# タイ国コンケン病院スタッフ研修 来院報告

このたび総勢9名のコンケン病院関係者が当院を訪問しました。2009年11月に当院と姉妹協定を締結してから交流を続けており、今回が3回目の来日です。病院長は当院の各部門、そして日本赤十字社九州血液センターならびに熊本大学医学部附属病院を見学して帰国の途につきましたが、残る医師3名、看護師3名、検査技師2名は、2012年2月13日からの1週間、熊本医療センターに滞在し、それぞれの分野の専門家について日本の医療、当院の取り組みを学びました。皆、当院関係者との間に活発な意見交換をおこない、食欲に知識を吸収したようです。この後も両病院の活発な職員交流が続くことを期待しています。

(臨床研究部 特殊疾病研究室長 武本 重毅)



日本赤十字社九州血液センター見学の様子



河野副院長と記念撮影

## コンケン病院・熊本医療センター間の国際医療協力 2012メンバー

1. ドクター ウィラパン 病院長
2. ドクター ソウムサ 副院長、人材育成担当
3. ドクター ソウムチャアイ 血液内科医
4. ドクター マリーチャー 産婦人科医
5. ミス ジョンコンニー 看護教育部長
6. ミセス ウウンディー 内科病棟師長
7. ミス ウトゥンポーン 感染制御認定看護師
8. ミセス ソウムポーン 輸血部長
9. ミス ウィ・サンサニー 臨床検査技師

## 第14回 二の丸肝臓談話会のお知らせ

(日本医師会生涯教育講座1.5単位認定)

この度、第14回二の丸肝臓談話会を下記の要綱にて開催したいと存じます。

今回は特別講演として国立病院機構長崎医療センターより長岡進矢先生をお招きして、B型肝炎の最近の話題についてわかりやすく解説していただく予定です。

何かとご多忙中とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

座長：新町いえむらクリニック 院長 家村 昭日朗 先生

【講演1】 「アンケートから見た肝臓病教室の有用性」

国立病院機構熊本医療センター 7西病棟看護師

川畑 藍

【講演2】 「この1年間に経験した低分化型肝細胞癌について」

国立病院機構熊本医療センター 消化器内科医長

中田 成紀

【特別講演】 「B型肝炎最新の話」

国立病院機構長崎医療センター 臨床研究センター 肝炎治療研究室長 長岡 進矢 先生

日 時：平成24年3月12日(月) 19:00~20:30

場 所：国立病院機構熊本医療センター 2階 地域医療研修センター

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター 消化器内科医長 杉 和洋 TEL: 096-353-6501(代表) FAX: 096-325-2519

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ63回

看護師の造血幹細胞移植前訪問による不安軽減に対する有用性の検討  
～地域病院との連携を通して～

看護師 矢野 真理子

6南病棟看護師長 高尾 珠江

当院の血液内科は、悪性血液疾患に対し、化学療法から造血幹細胞移植（以下移植）までを行なっています。移植に関しては、熊本県で骨髄移植を実施している唯一の施設であり、年間約40例の移植を実施し、そのうち1/3の患者さまは地域病院から、当院へ転院し治療を継続することとなります。そのような中で、他の施設から転院されてきた患者さまは、初めての移植というだけでなく、それまでの化学療法を行っていた病院を離れ、慣れない環境や医療スタッフと共に移植を行わなければならない不安や戸惑いは大きいと感じました。

手術前訪問については、有用であることが報告されており、近年在宅療養に向けて訪問看護師や保健師が入院中の患者さまへ訪問に来られることも増えています。そこで、地域病院と連携し、当院の看護師による移植前訪問を行い、医療者と患者・家族間の信頼関係を築くことで、患者・家族の不安軽減やセルフケア能力をより高め、治療を効果的に受けることができるのではないかと考え本研究に取り組みました。

本研究を開始し、11月に移植前訪問を実施することができました。看護師2人で地域病院へ訪問し、15分程度面談をさせていただきました。病棟紹介のDVD

を見てもらい、その後移植前に準備して頂くものを説明しました。お互いの緊張もほぐれると、現在の体調や入院前の生活について、そして移植への思いを聞かせていただきました。その後地域病院の看護師と面談し、患者さまの身体状況・セルフケア能力や患者さまが何を支えに治療に臨まれているのか、など様々な情報を得て終了することができました。その数日後に、当院へ移植目的で入院されました。いつもの入院患者さまを受け入れる感じとは違い、頭の中に患者さまとご家族の姿が浮かび、懐かしい方に会うような気がしました。オリエンテーションも、看護師も患者さま・ご家族も落ち着いた気持ちで実施できたように感じられました。地域病院の訪問後の反応は、患者さまから「安心した」ということを聞くことができ、移植前訪問を実施してよかったです。今後も継続したいという言葉頂くことができました。

まだ、1症例しか実施できていませんが、医療者と患者・家族の信頼関係の構築と不安の緩和に繋げるため、移植前訪問を継続しよい結果を報告したいと考えます。



国立病院機構熊本医療センター造血幹細胞移植実施状況（2012年2月1日現在）

実施年	同種造血幹細胞移植						自家移植			移植合計	骨髄採取			
	骨髄		末梢血	骨髄+末梢血	臍帯血	計	骨髄	末梢血	計		血縁	バンク	自家	計
	血縁	バンク												
平成3年	3	0	0	0	0	3	0	0	0	3	3	0	0	3
平成4年	2	0	0	0	0	2	0	0	0	2	2	2	0	4
平成5年	2	0	0	0	0	2	0	4	4	6	2	2	0	4
平成6年	0	2	0	0	0	2	0	11	11	13	0	1	0	1
平成7年	1	4	1	0	0	6	0	16	16	22	1	4	0	5
平成8年	0	3	8	0	0	11	0	14	14	25	0	3	0	3
平成9年	0	0	8	0	0	8	0	17	17	25	0	1	0	1
平成10年	0	5	23	0	1	29	0	20	20	49	0	1	0	1
平成11年	0	3	11	0	0	14	0	11	11	25	0	2	0	2
平成12年	0	4	17	0	0	21	0	14	14	35	0	4	0	4
平成13年	0	3	23	0	2	28	0	13	13	41	0	6	0	6
平成14年	0	8	28	0	3	39	0	11	11	50	0	6	2	8
平成15年	6	7	24	0	6	43	0	18	18	61	6	12	1	19
平成16年	4	3	13	0	7	27	0	7	7	34	4	7	3(2) <sup>*1</sup>	14
平成17年	7	6	19	0	5	37	0	17	17	54	7	13	9(1) <sup>*2</sup>	29
平成18年	7	13	9	1	5	35	0	9	9	44	7	6	10	23
平成19年	13	10	13	0	6	42	0	10	10	52	13	9	5	27
平成20年	7	7	11	0	8	33	0	6	6	39	7	12	3	22
平成21年	7	13	4	1	5	30	0	3	3	33	8	14	3	25
平成22年	6	6	10	0	9	31	0	11	11	42	6	16	1	23
平成23年	4	16	6	1	8	35	0	3	3	38	5	12	4	21
平成24年	0	2	1	0	0	3	0	1	1	4	0	1	0	1
計	69	115	229	3	65	481	0	216	216	697	71	134	41	246

# 医学シリーズ

## No. 185

# 糖尿病・内分泌内科 (No. 6)

### 最近のトピックス

## 妊娠糖尿病 -26年ぶりの診断基準改定-



糖尿病・内分泌内科医長  
**豊永 哲至**

2010年7月に糖尿病の診断基準が約10年ぶりに改訂されました。それに合わせて妊娠糖尿病の診断基準も26年ぶりに改訂されました。

新しい診断基準では、妊娠糖尿病が「妊娠中に初めて発見、または発症した糖尿病に至っていない糖代謝異常で、糖尿病と診断されるものは除外する」と定義されました。診断としては、75g経口糖負荷試験で、空腹時血糖値 $\geq 92\text{mg/dL}$ 、1時間値 $\geq 180\text{mg/dL}$ 、2時間値 $\geq 153\text{mg/dL}$ の1点以上を満たした場合となりました。以前の診断基準では、空腹時血糖値 $\geq 100\text{mg/dL}$ 、1時間値 $\geq 180\text{mg/dL}$ 、2時間値 $\geq 150\text{mg/dL}$ のいずれか2点以上を満たした場合に診断していましたので、より軽度の耐糖能異常が診断されるようになったのが解ります。これは2008年に妊娠時の軽い高血糖が児に及ぼす影響に関する国際的な無作為比較試験(HAPO Study)の結果が報告され、これに基づいて2010年に国際研究グループから妊娠糖尿病の診断について勧告が出たからです。

この診断基準変更により、妊娠糖尿病の頻度は2.92%から12.08%へ増加することが予測され、それに明らかな糖尿病合併妊娠を加えると、なんと約15%の妊

婦さんが妊娠糖尿病あるいは糖尿病合併妊娠と診断されることになりました。

当科においても診断基準変更前後の1年間で妊娠糖尿病の外来患者数は3.4倍に増加し、入院患者数は1.8倍に増加、HbA1c (JDS値)の平均値は5.2%から4.9%に低下しました。

妊娠糖尿病の患者さんは妊娠に加えて、糖尿病という新たな疾患の発症もあり、これからの妊娠・出産について不安を感じています。このため、治療の上で、妊娠と糖尿病の関係、妊娠における血糖コントロールの意義と重要性、出産までの長期的な計画について十分に理解することが最も重要となります。また、これから始まる糖尿病治療のために、血糖値などの検査値についての理解や、厳格な血糖コントロールを達成するための方法(分割食の仕方、インスリン注射の仕方、血糖自己測定の方法、低血糖の対応)などについても習得しなければなりません。当科では、一連の妊娠糖尿病診療における内容と手順が整理・記載されたクリティカルパスを妊娠糖尿病の教育入院において用いており、医療者と患者さんの双方にとって非常に有用なツールとなっています。パスは7日間で作成されていますが、血糖コントロールに問題が無い患者さんでは、自己管理の手技を習得すれば早期の退院が可能であり、実際の入院日数は3~9日(最頻値5日、平均6日)となっています。

少子化が社会問題ともなっている中、妊娠糖尿病を的確に診断し治療することは、日本の将来を活力あるものにするという社会の要請でもあると言えます。

### 糖代謝異常妊娠の合併症

周産期合併症	巨大児、先天奇形、妊娠高血圧症候群
母体の将来の2型糖尿病発症	糖尿病発症が約7.5倍に増加
児の将来の2型糖尿病発症	若年期の肥満や、耐糖能低下が増加

### 妊娠糖尿病血糖コントロール入院の患者様へ

患者氏名	科							受診医師	受診看護師						
月日(日時)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目		5日目	6日目	7日目		5日目	6日目	7日目
経過(前日時)															
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>妊娠と糖尿病について理解ができる</li> <li>インスリンの意味が理解できる</li> <li>診断基準を理解し同意している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>血糖自己測定やインスリン注射ができる</li> <li>検査結果が理解できる</li> <li>低血糖の適切な対応ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>血糖自己測定やインスリン注射ができる</li> <li>検査結果が理解できる</li> <li>低血糖の適切な対応ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>血糖自己測定やインスリン注射ができる</li> <li>検査結果が理解できる</li> <li>低血糖の適切な対応ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【退院基準】</li> <li>日常生活において血糖コントロールができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【退院基準】</li> <li>日常生活において血糖コントロールができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【退院基準】</li> <li>日常生活において血糖コントロールができる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【退院基準】</li> <li>日常生活において血糖コントロールができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【退院基準】</li> <li>日常生活において血糖コントロールができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【退院基準】</li> <li>日常生活において血糖コントロールができる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【退院基準】</li> <li>日常生活において血糖コントロールができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【退院基準】</li> <li>日常生活において血糖コントロールができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【退院基準】</li> <li>日常生活において血糖コントロールができる</li> </ul>
治療薬(点薬・内服)		必要な場合インスリン注射が始まります	必要な場合インスリン注射が始まります	必要な場合インスリン注射が始まります	必要な場合インスリン注射が始まります	必要な場合インスリン注射が始まります	必要な場合インスリン注射が始まります		必要な場合インスリン注射が始まります	必要な場合インスリン注射が始まります	必要な場合インスリン注射が始まります		必要な場合インスリン注射が始まります	必要な場合インスリン注射が始まります	必要な場合インスリン注射が始まります
食事	身長、体重を測定します	妊娠糖尿病の指導のもと7日7回血糖値を測定していただきます (7:30, 10:30, 11:30, 14:30, 17:30, 20:30, 22:00)			自分で1日7回血糖値を測定していただきます										
検査	検査の為に14時から採血を済ませて頂きます	尿を溜めて頂きます 採血があります	14時で尿を溜めることを終了します												
活動制限	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません		制限はありません	制限はありません	制限はありません		制限はありません	制限はありません	制限はありません
栄養(食事)	治療食です *Meal	治療食です	治療食です	治療食です	治療食です	治療食です	治療食です		制限はありません	運動療法が始まります	制限はありません		制限はありません	制限はありません	制限はありません
薬	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません		制限はありません	制限はありません	制限はありません		制限はありません	制限はありません	制限はありません
診察	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません	制限はありません		制限はありません	制限はありません	制限はありません		制限はありません	制限はありません	制限はありません
患者様及びご家族への説明(入院生活)	<p>受診医師が治療計画について説明いたします</p> <p>看護師が入院生活について説明いたします</p> <p>看護師が検査の手続きをお話しします</p> <p>検査交換員をお持ちでない方は先発でご購入ください</p>	<p>看護師が血糖測定の手続きについて説明いたします</p> <p>薬剤師が薬について説明いたします</p> <p>管理栄養士が食事について説明いたします</p>			<p>看護師が日常生活について説明いたします</p>				<p>運動療法の許可が出た方は、汗着に着替え、運動靴でお出かけください</p> <p>出かける際は看護師から外出許可証を受け取りお持ちください</p> <p>退院の許可が出たら受診医、看護師より退院後の生活について説明があります</p> <p>必要な患者様には、インスリンをお渡しします</p> <p>当院退院の場合次回外来受診予約をお話しします</p>						
患者様及びご家族への説明(入院生活)	<p>看護師が検査で必ず学習を行います(火・水)</p> <p>カンパンス型にて心電図・聴取検査を行います</p> <p>水曜日14時30分~看護師、医師</p> <p>金曜日13時30分~薬剤師、検査技師、栄養士</p>	<p>入院費は3割負担で総額7万円になります</p> <p>入院費に際しては心電図が必須となります</p> <p>入院期間については退院時点で手帳される期間です。</p>													

## 研修医レポート

### 臨床研修医

1年次 <sup>みなみ</sup>南

<sup>しょうご</sup>尚吾



皆さんこんにちは（お久しぶりです?）。研修医1年目の南尚吾です。月日の流れは早いもので当院で働きはじめ早1年が経とうとしています。山城君と自分の2人は熊大病院所属のため4月からは大学での勤務となります。4月に赴任してきた時は果たして本当にちゃんと仕事ができるのかと内心疑問でしたが、おかげ様で少しはまともな医師に成長できたのではないかと思います。

この一年間で麻酔科、消化器内科、外科、神経内科、救命救急部、腎臓内科にお世話になりました。各診療科を回った際に消化器内科では腹部エコーの勉強。外科では創部縫合の習得。腎臓内科ではエコーガイド下CVをマスターするという風にいくつか目標を掲げて研修してきたつもりですが、まだまだ学ばなければならない知識や技術はたくさんあるなど感じる今日この

### 臨床研修医

1年次 <sup>やましろう</sup>山城

<sup>きよと</sup>清人



こんにちは。研修医一年次の山城清人です。琉球大学医学部を卒業し、熊本大学医学部附属病院のプログラムにて、熊本医療センターで研修しています。そして、今年の3月でここでの勤務を終え、熊本大学医学部付属で4月から働くこととなります。

救急部、神経内科、麻酔科、腎臓内科、外科、呼吸器内科をローテイトしました。各科で上級医の指導のもと診療に励んできました。先生方と同じ患者さんを診て、どのような事を考え、先を見据えた治療を行っているのかを考え、日々が勉強でした。ただそれを自分のものにするためには、これから先何年もかけて自分なりの医師としての形が出来上がっていくのだと思いました。丁寧にご指導くださった先生方、本当にありがとうございました。またあたたかい目で見守り、支えてくれた同期のみんな、看護師さんをはじめ、コメディカルスタッフのみなさんありがとうございました。

頃です。

この一年、各ローテート先で指導医の先生方を始め様々な先生にお世話になりました。共に診療に携わる中で同じ物事に対しても各科の先生方によってさまざまな考え方や捉え方があり、とても勉強になりました。自分がどうしてよいか困り果てていたとき相談に乗ってくれた先生方や同期のみんな。またよくわからない指示を出してしまっても優しく対応してくださった看護師、コメディカルの皆さん。本当にありがとうございました。医師となって初めて働けた場所がここ熊本医療センターで本当によかったです。残り短い間ですが一日一日を大切に過ごしていきたいと思っておりますので今後ともよろしくお願いたします。



日頃の研修風景

した。

来年度から研修医2年目となりますが、現在の2年目の先生方のように仕事ができるようになるのか、はなはだ疑問が残っています。人生で最初に働けた場所が熊本医療センターでほんとによかったです。また新しい環境で働くのは、とても不安でいっぱいですが、みなさんから教わったことを胸に大学病院の方でも、充実した研修生活を送っていきたいと思います。どうもお世話になりました。また、一緒に働く機会がある方もいらっしやると思いますし、今後ともご指導よろしくお願いたします。



同期の研修医と

# 研修のご案内

## 第117回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成24年3月14日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「胸痛」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長

藤本 和輝

国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科医長

岡本 実

国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長

柏原 光介

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

## 第127回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成24年3月15日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

### 1. 「糖尿病患者の薬物療法に関する理解度調査」

国立病院機構熊本医療センター薬剤科

藤野小百合、平池美香子、平木洋一、真鍋健一

### 2. 「高浸透圧性高血糖症候群を呈した前立腺癌の骨転移を伴う2型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

今村友彦、嶋田さやか、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

## 第20回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成24年3月17日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：熊本県医師会理事

樽美 光一 先生

演題：「腰痛症と坐骨神経痛の保存療法」

### 1. 腰痛症の概念の変化－腰痛症ガイドラインを中心に－

国立病院機構熊本医療センター整形外科部長

橋本 伸朗

### 2. 末梢性神経障害性疼痛に対する治療について－坐骨神経痛に対する保存療法を中心に－

荒尾市民病院診療部長

前田 勇一 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

## 第158回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成24年3月19日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

### 1. 胸部レントゲン読影

### 2. 持ち込み症例の検討

### 3. 症例検討「CKDについて（続報）」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長

富田 正郎

### 4. ミニレクチャー「髄膜炎について」

国立病院機構熊本医療センター神経内科

中西 俊人

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

# 2012年 研修日程表 3月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

3月	研修センターホール	研修室	その他
1日(木)		18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
2日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
5日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
6日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
7日(水)	18:00~19:30 第73回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
8日(木)		18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
9日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
12日(月)	19:00~20:30 第14回 二の丸肝臓談話会		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
13日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:00 外科術前症例検討会 C1 17:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
14日(水)	18:30~20:00 第117回 救急症例検討会 「胸痛」		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
15日(木)		19:00~20:45 第127回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 【日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定】	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
16日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「自己免疫性肝疾患」	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
17日(土)	15:00~17:30 第20回 症状・疾患別シリーズ 【日本医師会生涯教育講座2.5単位認定】 座長 熊本県医師会理事 榑美 光一 「腰痛症と坐骨神経痛の保存療法」 1. 腰痛症の概念の変化-腰痛症ガイドラインを中心に- 国立病院機構熊本医療センター整形外科部長 橋本 伸朗 2. 末梢性神経障害性疼痛に対する治療について -坐骨神経痛に対する保存療法を中心に- 荒尾市民病院診療部長 前田 勇一		
19日(月)	19:00~20:30 第158回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
21日(水)		13:00~17:00 糖尿病教室(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
22日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
23日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
26日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会・講演会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
28日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
29日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
30日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)